

2011年2月14日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
 URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## P B 食品市場の調査を実施

2010年見込

P B 食品販売額 前年比6.9%増の2兆4,265億円

P B 食品売上比率 2007年の6.1%から9.3%へ

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、「トップパリュ」「セブンプレミアム」をはじめとするP B (プライベートブランド)食品の市場を調査分析した。その結果を報告書「P B 食品市場の実態総調査 2011」にまとめた。

この報告書では、主要P B食品の市場動向をまとめた品目編、主要P B食品の事例調査編、流通チェーンの事例調査編により三つの視点からP B食品の市場をとらえた。品目編では、10カテゴリー67品目について市場の動向と受託製造企業の動向をとらえるとともに、P B食品の“強み”と“弱み”の要因を分析した。主要P B食品の事例調査編では、主要8ブランドのP B食品の品目別販売動向とチェーン別のP B食品の取扱状況、品目別売上動向、今後の方向性など主要ブランドの詳細を明らかにした。流通チェーン事例編では、46チェーンの事例を研究し、GMS、SM、CVS、生協、ドラッグストア、ホームセンターなど様々な流通チェーンのP B食品の取扱状況と取扱意向について分析した。

### < 調査結果の概要 >

P B食品市場は、一億総中流社会の崩壊を背景に、生活必需品を中心に価格を最優先する層が急速に増えてきたことで拡大してきた。食用油や即席味噌汁などP B食品を置いていない店舗を探すことが難しいほど、P Bは氾濫しNB (ナショナルブランド)を侵食し続けている。しかし、好調に拡大していたP B食品市場も2010年に入り、NBがP Bに対抗して値下げを強化したため、多くのP Bの価格優位性が薄れ、P B食品の市場拡大の勢いに陰りが見え始めている。商品単価の下落、買い上げ点数の横ばい、客数減などによる厳しい状況が続いているなかで、小売業界は、安いだけでは消費者の支持を得られないという市場環境に対応すべく、P Bの「アイテム拡大」から「単品強化」へと大きく舵を切る動きが出てきている。

	2007年	2009年	2010年見込
P B 食品販売額 (小売ベース)	1兆6,382億円	2兆2,703億円	2兆4,265億円
P B 食品売上比率	6.1%	8.5%	9.3%

$$P B \text{ 食品売上比率} = P B \text{ 食品販売額} \div (NB \text{ 食品販売額} + P B \text{ 食品販売額}) \times 100$$

2007年、2008年と“P Bブーム”が加熱しP B食品市場は急拡大した。調味食品や牛乳などで2009年、2010年と落ち込んだ商品があるものの、トータルでは新規ブランドの投入が相次ぎ、3兆円市場が視野に入ってきている。2007年に6.1%であったP B食品売上比率は2010年には9.3%へと拡大したと見込まれる。

2010年(見込)の市場規模が最も大きいカテゴリーは、日配和風・日配ドライ(パン、練製品、漬け物など)で前年比7.3%増の7,200億円となる。なかでもパン市場は3,500億円を超える大きな市場となっている。チルド飲料・乳製品(牛乳、果汁・野菜飲料、チーズなど)が2番目に大きく前年比6.5%増の3,284億円となる。牛乳は1,200億円を超える大きな市場である。菓子(均一菓子、和菓子、チョコレートなど)、飲料・嗜好品(お茶類、炭酸飲料、ミネラルウォーター類など)が続き、それぞれ2,000億円を超える市場となっている。菓子では均一菓子(100円均一、105円均一などの菓子)が1,000億円を超え、飲料・嗜好品ではお茶類が600億円を超える市場となっている。

P B 食品売上比率 上位5 ( 2 0 1 0 年見込 )

順位	品 目	構成比
1	リキッドコーヒー(チルド)	30.2%
2	即席味噌汁	29.4%
3	冷凍スナック類	29.2%
4	加工ごま	26.9%
5	食用油	25.4%

食用油やマヨネーズ(10位)はP B比率が高まっている一方で、油脂相場の落ち着きによりN Bの巻き返しが強まっており、P Bは価格訴求と共に品質訴求が急がれる。リキッドコーヒー(チルド)はP Bの比率が2010年には30%を超える見込である。P Bに集約を図っている店舗も見られており、今後も伸びが期待される。乾物の加工ごまやかつおパック(8位)は有力ブランドが少ないことからP Bの参入障壁が低い。ボリュームが求められるP B食品の中でも、セブンプレミアムの加工ごまのように小容量タイプが利便性から売上を増加しているケースもみられる。

一方、P B比率が低いのは、缶コーヒー、ビール類、ガム、キャンディ・グミ、コーヒー(インスタント・レギュラー)など指名買いが多い嗜好性の高い食品となっている。その中で、ビール類は2009年頃から新ジャンルビール(いわゆる第3のビール)が投入されており、海外メーカーに製造を委託し350ml 6缶パックで500円を下回る商品もでてきている。ビール類はもとの規模が大きいいため売上比率は低いが、今後も価格訴求により節約志向の消費者に受け入れられていくとみられる。

P B 食品販売高 上位5 ( 2 0 1 0 年見込 )

順位	品 目	販売高
1	パン	3,553億円
2	牛乳	1,265億円
3	お茶類	660億円
4	練製品	597億円
5	即席麺・スナック麺	532億円

パンは、量販店では食パン中心、C V Sでは菓子パン、惣菜パンを中心とした焼きたてパンが定着している。チルド売場の練製品やドライ(常温)の即席麺・スナック麺などは価格訴求により買い上げ点数が多い。

注目市場

冷凍スナック類 2010年販売見込 216億円(P B食品売上比率 29.2%)

たこ焼き、お好み焼き、グラタン・ドリア、和風スナック(大学いも、今川焼、たい焼きなど)、洋風スナック(ホットケーキ、パンケーキ、ワッフルなど)で、トップバリュなどのブランドが記載されているものが対象である。景気悪化による節約志向の高まりから、スナックを家庭で作る機会が増え、低価格でラインアップを拡充したP Bは、消費者の支持を得て市場が拡大している。また、コンビニでは個食設計でレンジ調理が可能な商品として定番化されるものも増加している。

パン 2010年販売見込 3,553億円(P B食品売上比率 20.7%)

食パン、菓子パン、惣菜パン、テーブルパン等の流通パンを対象とし、チルド(一部常温の場合もある)惣菜売場のサンドイッチ等の調理パンは対象に含まない。

量販店の食パン、テーブルパン、コンビニの焼きたてパンがP Bパン市場を牽引している。菓子パンは量販店の一部でメロンパンやスティック状のスナックパン、クリームパンなどがあるが商品数が少なく、また、惣菜パンの展開も少ない。コンビニでは焼き立てパンシリーズの菓子パン、惣菜パンがほとんどを占めており、食パンやテーブルパンはN Bを含めても僅かである。元々はP Bのパンと言えばコンビニの焼き立てパンシリーズが多くを占めていたが、消費者の低価格志向の高まりから2007年、2008年と生活必需品の一角である食パンを中心にP Bの需要が増え、景気後退が顕著となった2009年にはP B食パンが定着した。一方で食パンは「超熟」「本仕込」「超芳醇」などのN Bが定着しており、N Bの“ブランド”とP Bの“価格”に消費者の需要が二分されるようになった。

P B比率は2010年に20%を突破すると見込まれる。コンビニでは菓子パン、惣菜パンを中心に焼き立てパンが定着しており、生協の販売増、新規ブランドの拡充などから、2010年以降も増加すると予測される。

カップ飲料(チルド) 2010年販売見込 283億円(PB食品売上比率 18.2%)

「マウントレニア」「スターバックス ディスカバリーズ」などのNBが強い市場であるが、2007年のセブンプレミアムドリンクヨーグルト、セブンイレブンの「7&i」ブランドカップ飲料の発売によりPB市場が形成された。その後2009年に、ファミリーマートが「あじわいファミマカフェ」、ローソンが「L s Style」をシリーズ展開したことから、コンビニ中心にPB市場が拡大している。

ビール類(ビール、発泡酒、新ジャンル) 2010年販売見込 264億円(PB食品売上比率 1.2%)

イオンのトップバリュ「バーリアル(新ジャンル)」が350ml 6缶パック488円という低価格を実現している(2010年6月発売)。CGCなどのボランタリーチェーンのPBも500円を少し超える程度の価格で販売されており、国内メーカーに製造委託しているPBもNBに比べると低価格であり、ビール類においてもPBが徐々に定着してきている。2010年以降供給側とのパイプを強化し新商品の投入を行っていることから、ビール類のPB市場は今後も拡大していくと予測される。

#### <調査対象>

調味料	醤油、食用油、味噌、つゆの素、マヨネーズ、ドレッシング、ケチャップ・ソース類、酢・ポン酢、スパイス類、小麦粉・パン粉・プレミックスパウダー、みりん類、たれ類、その他
調味食品	インスタントカレー・シチュー、レトルトカレー・シチュー、インスタントスープ、即席味噌汁、乾麺、パスタ・マカロニ、パスタソース、即席麺・スナック麺、ふりかけ・お茶漬、シリアル、無菌包装米飯、缶詰、その他
菓子	均一菓子、チョコレート・チョコレート菓子、スナック菓子、キャンディ・グミ、ガム、おつまみ・珍味・豆菓子・ナッツ類、和菓子、ビスケット・クッキー、ゼリー(ドライ)、その他
飲料・嗜好品	炭酸飲料、果汁飲料、野菜飲料、お茶類、ミネラルウォーター類、缶コーヒー、その他ドライ飲料、コーヒー、紅茶・お茶類、その他嗜好品
乾物	加工ごま、かつおパック、のり、その他
アルコール類	ビール類、チューハイ・カクテル、焼酎、その他
日配和風	納豆、豆腐・豆腐加工品、漬物、練製品、煮豆・佃煮、チルド麺、その他
日配ドライ	パン、その他(ドライ日配)
チルド飲料	牛乳、カップ飲料、リキッドコーヒー、果汁飲料・野菜飲料、その他
乳製品	チーズ、ヨーグルト、その他
畜肉加工品	ハム・ベーコン、ソーセージ、その他加工肉、その他
冷凍食品	冷凍めん・冷凍米飯、冷凍スナック類、冷凍惣菜、その他冷凍食品、アイスクリーム、その他

#### <調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業への直接面接取材を基本に、電話取材、公的データ・公表資料等文献調査により補完

#### <調査期間>

2010年10月~12月

以上

資料タイトル:「PB食品市場の実態総調査 2011」  
体 裁 : A4判 468頁  
価 格 : 120,000円(税込み126,000円)  
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部  
TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778  
発 行 所 : 株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル  
TEL:03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail: info@fuji-keizai.co.jp  
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>